

第6回 川上ダムモニタリング部会 議事要旨

- 1 日時 : 令和7年1月10日(金) 15:00~17:00
- 2 場所 : TKP ガーデンシティ京都タワーホテル 5階 カンファレンスルーム 5B

3 委員

部会長 池淵周一 京都大学名誉教授
委員 江崎保男 兵庫県立大学名誉教授
海老瀬潜一 元摂南大学教授
角哲也 京都大学防災研究所水資源環境研究センター特定教授(欠席)
藤井伸二 人間環境大学環境科学部フィールド生態学科准教授
松井正文 京都大学名誉教授
森下郁子 一般社団法人淡水生物研究所所長

(五十音順)

4. 議事要旨

(1) 規約の変更について

- ・規約について、部会委員の役職・所属を変更し、規約は令和7年1月10日から施行する。

(2) 令和6年度 川上ダムモニタリング調査結果について

【水質】

- ・環境保全措置について、現時点の効果がどうであるかを強調して整理すること。
- ・一般的に湛水直後に富栄養化となることが多いが、川上ダムでは富栄養化とならなかったことについて、背景やプロセス等を踏まえて評価すること。
- ・これまで確認された洪水後の底層D0の低下、底層T-P、底層T-Nの上昇について、今後とも起こり得ることを理解した上で、選択取水設備の運用方法を考えていくとよい。

【植物の重要種の保全】

- ・移植の成否に関する評価について、生態特性、移植の難易度等の詳細な情報も記載すること。
- ・他事業での移植事例があれば、その結果も併せて整理するとよい。

【貯水池の環境、河川の環境】

- ・変化が見られたものについて、ダム建設の影響による変化か、そうではないことによるものか、区別して記載するとよい。
- ・現状の評価は、現状で把握できたことを客観的、科学的に記載すること。
- ・モニタリングを継続するのではなく、調査結果に応じて、早めにフォローアップを行っていくことがよい。

【事業効果等の把握】

- ・ダム上流域の汚濁源フレームなど水源地域の動態について、人口動態・産業動態の公表にあわせて更新していくことが望ましい。
- ・利水補給の実績について、河川流況なども踏まえて丁寧に記載すること。

【全体】

- ・ダム湛水による影響を調査対象としており、水質は直接的な影響を受けるが他の項目は間接的な影響が多く、湛水の影響を制御することが難しい。その点を区別して整理すること。

(3) 今後の調査方針（フォローアップ調査計画（素案））

- ・湛水の影響が生物種によっては長期にわたって現れることも加味したうえで、モニタリング調査結果を踏まえフォローアップ調査に引き継ぐ留意点を整理すること。
- ・土砂還元は、時間を置くとその後の対応が難しくなるため、早めに取り組むとよい。

以 上